

再評価

【河川事業】

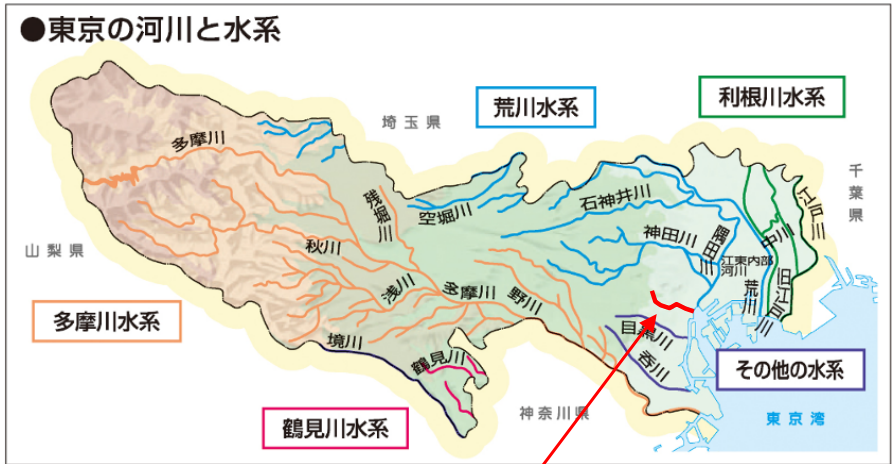
(補助事業等)

➤ 渋谷川・古川床上浸水対策特別緊急事業	・・・・・・・・	1
➤ 広田川・砂川床上浸水対策特別緊急事業	・・・・・・・・	3
➤ 占部川床上浸水対策特別緊急事業	・・・・・・・・	5
➤ 鹿乗川床上浸水対策特別緊急事業	・・・・・・・・	7

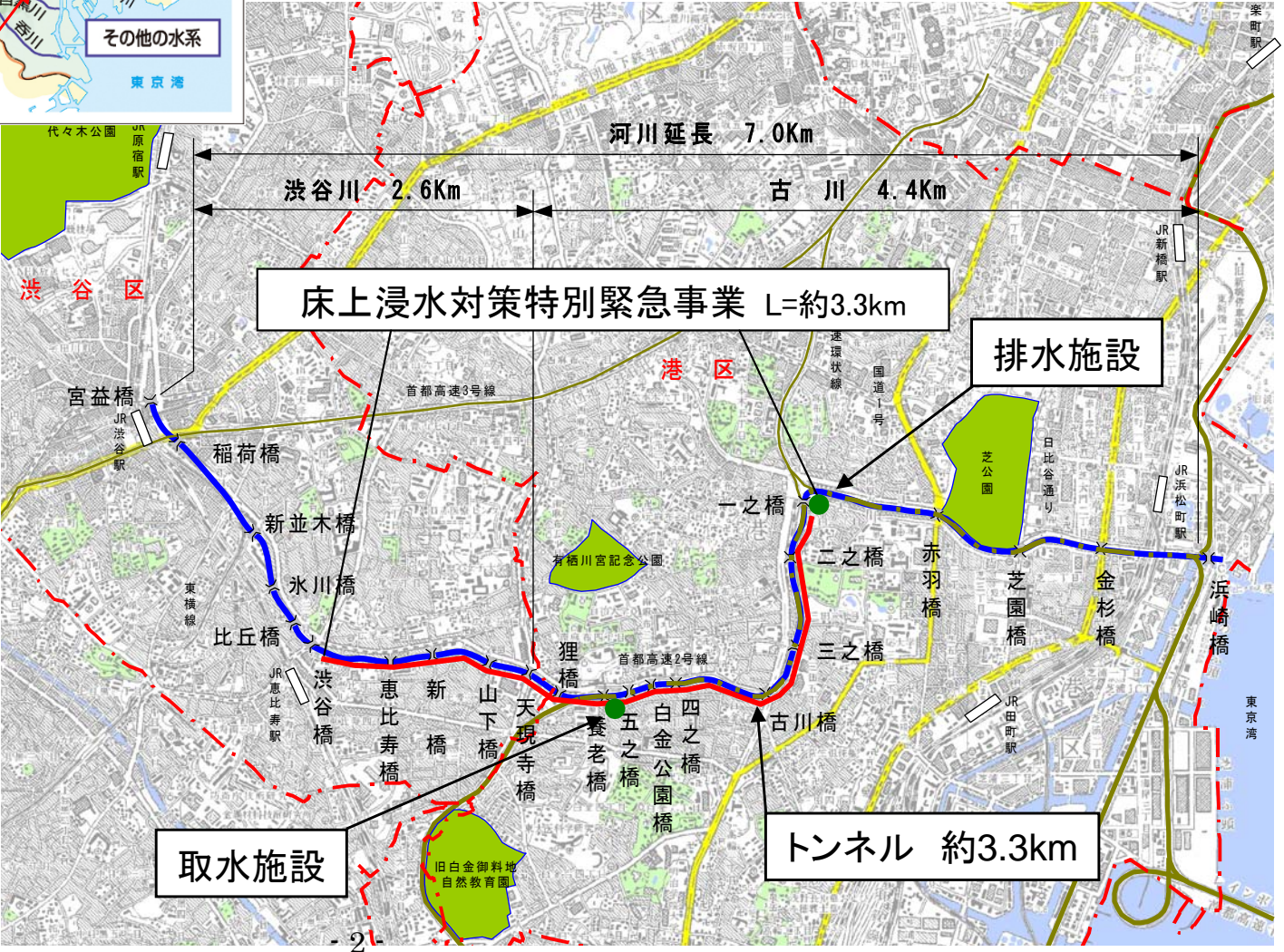
<再評価>

事業名 (箇所名)	古川床上浸水対策特別緊急事業	担当課	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	東京都												
実施箇所	東京都港区、渋谷区																
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業																
事業諸元	地下調節池整備 延長:約3.3km 容量:約135,000m ³																
事業期間	平成20年度～平成27年度																
総事業費 (億円)	約300	残事業費(億円)	約40														
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 古川流域内では集中豪雨などによる都市型水害が発生していると、地下鉄など地下空間利用の高度化により被害拡大の危険性が増している。 平成11年8月の豪雨では床上浸水293戸を含む浸水戸数627戸もの甚大な浸水被害が発生し、翌年度以降も重なる浸水被害を受けている。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 地下調節池を施工して古川流域における治水安全度の向上を図る。 平成11年8月洪水と同規模の洪水に対して、床上浸水被害を解消する。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標:水害等災害による被害の軽減。 施策目標:水害・土砂災害の防止・減災を推進する。 																
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数:108戸 年平均浸水軽減面積:0.7ha																
事業全体の投資効 率性	基準年度	平成25年度															
	B:総便益 (億円)	907	C:総費用(億円)	374	B/C												
				2.4	B-C												
				533	EIRR (%)												
					-												
感度分析	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">全体事業(B/C)</td> </tr> <tr> <td>残事業費(+10%~-10%)</td> <td>2.4</td> <td>~ 2.5</td> </tr> <tr> <td>残工期(+10%~-10%)</td> <td>2.4</td> <td>~ 2.5</td> </tr> <tr> <td>資産(-10%~+10%)</td> <td>2.2</td> <td>~ 2.7</td> </tr> </table>						全体事業(B/C)		残事業費(+10%~-10%)	2.4	~ 2.5	残工期(+10%~-10%)	2.4	~ 2.5	資産(-10%~+10%)	2.2	~ 2.7
	全体事業(B/C)																
残事業費(+10%~-10%)	2.4	~ 2.5															
残工期(+10%~-10%)	2.4	~ 2.5															
資産(-10%~+10%)	2.2	~ 2.7															
事業の効 果等	<ul style="list-style-type: none"> 洪水に対しては河道を拡げて速やかに下流へ流すことが基本となるが、古川においては護岸背面に隣接してビルや首都高の橋脚が建ち並んでおり用地の取得が困難である。 そのため、早期に治水安全度を向上させられるトンネル式の地下調節池を設ける。 																
社会経済 情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> 事業採択時以降においても局地的な集中豪雨が多発することにより、浸水被害が発生しており、本事業の必要性はより一層高まっている。 																
事業の進 捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 工事については平成20年度に着手し、平成24年度末までに調節池本体のシールドトンネル工(延長約3,300m)の掘進作業が完了している。 																
事業の進 捗の見 込み	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度事業完成に向けて、概ね予定通りに進んでいる。 																
コスト縮減 や代替案 立案等の 可能性	なし																
対応方針	継続																
対応方針 理由	<ul style="list-style-type: none"> 本事業は、水害から都民の生命と財産を守るために不可欠な事業であるが、古川沿いには業務ビルや首都高橋脚が林立しているため、河道拡幅方式による一般的な護岸改修が極めて困難な状況である。そのため、河道直下にトンネル式の貯留施設を設けることにより、早期水害軽減に資することができる。 																
その他	<ul style="list-style-type: none"> <第三者委員会の意見・反映内容> 特に意見なし 																

事業位置図



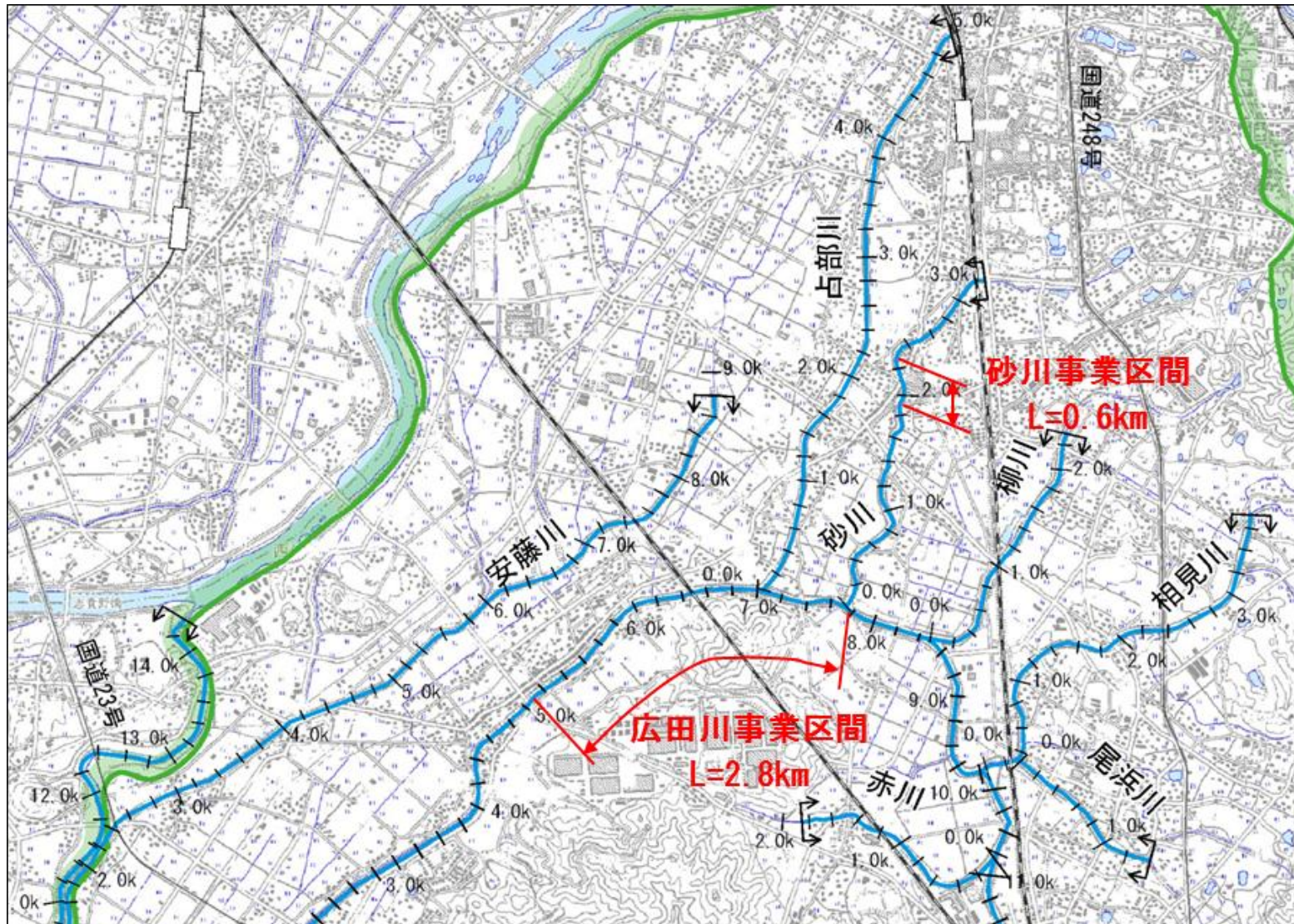
独立水系渋谷川・古川



<再評価>

事業名 (箇所名)	広田川・砂川床上浸水対策特別緊急事業	担当課	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	愛知県					
実施箇所	愛知県岡崎市、西尾市、幸田町									
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業									
事業諸元	河道掘削、築堤工、護岸工、橋梁改築、樋門改築、床固工 等									
事業期間	平成21年度～平成26年度									
総事業費 (億円)	約73	残事業費(億円)	約16							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広田川流域は、JR東海道本線、国道248号等の交通網が整備されており、岡崎市南部地区においては著しく都市化が進行している。 ・平成12年の浸水被害をはじめ、平成20年8月の豪雨では、床上浸水415戸もの甚大な被害が発生した。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削、築堤、護岸等を施工して流下能力の向上を図る。 ・平成20年8月洪水と同規模の洪水に対して、床上浸水被害を解消する。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標：水害等災害による被害の軽減 ・施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数：667戸 年平均浸水軽減面積：56ha									
事業全体の投資効 率性	基準年度	平成21年度								
	B:総便益 (億円)	858	C:総費用(億円)	88	B/C	9.7	B-C	770	EIRR (%)	-
事業の効 果等	・広田川、砂川における本事業の全体事業に対する費用便益比は9.74(>1)であり、事業着手時と同様な事業効果が発現される見通しである。									
社会経済 情勢等の変 化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年8月末豪雨以降、大きな浸水被害は発生していないが、沿川農地などにおいて湛水被害が発生している。事業実施により浸水の危険性は事業採択時より減少しているが、事業未実施区間の浸水の危険性は事業採択時と大きく変化していないと考えられる。 ・流域のある岡崎市の人口・世帯数は、平成21年の事業着手時に比べ微増となっており、事業実施の必要性は、事業着手時と同様に高い状況にある。 									
事業の進 捗状況	・工事については、平成21年度に着手し進捗率は76.0%である。									
事業の進 捗の見込 み	・事業進捗は概ね順調であり、計画通り平成26年度に完了する見込みである。									
コスト縮減 や代替案 立案等の 可能性	特になし									
対応方針	継続									
対応方針 理由	事業の必要性の変化、事業の進捗状況及び見込み、事業の効果の変化について、事業着手時と大きな変動がなく事業効果が期待できるため。									
その他	特になし									

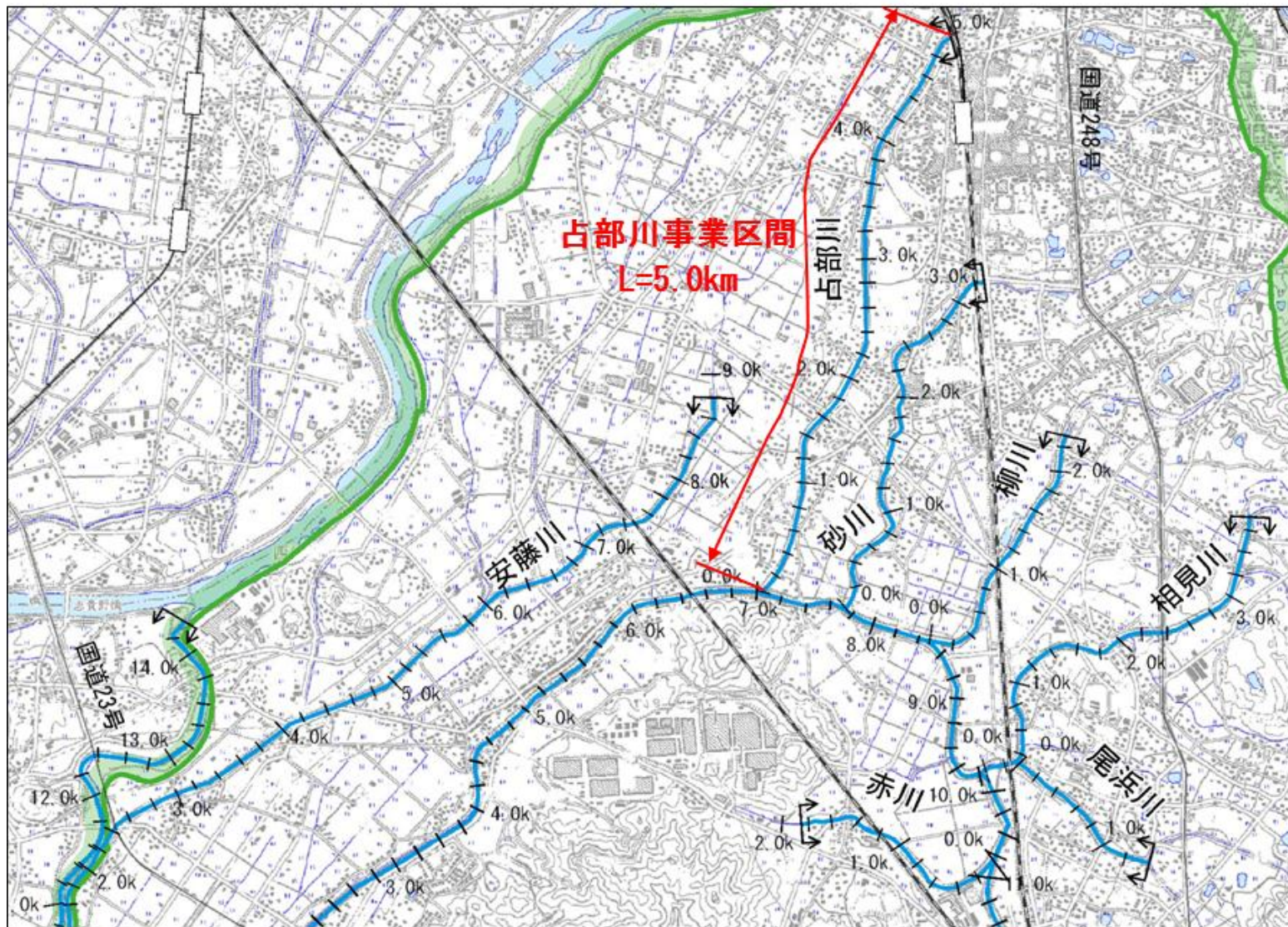
位置図【広田川・砂川】



<再評価>

事業名 (箇所名)	占部川床上浸水対策特別緊急事業	担当課	水管理・国土保全局治水課	事業主体	愛知県					
実施箇所	愛知県岡崎市									
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業									
事業諸元	河道掘削、護岸工、橋梁改築、樋管改築、遊水地 等									
事業期間	平成21年度～平成26年度									
総事業費 (億円)	約77	残事業費(億円)	約20							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広田川流域は、JR東海道本線、国道248号等の交通網が整備されており、岡崎市南部地区においては著しく都市化が進行している。 ・平成12年の浸水被害をはじめ、平成20年8月の豪雨では、床上浸水415戸もの甚大な被害が発生した。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削、護岸等を施工して流下能力の向上を図る。 ・平成20年8月洪水と同規模の洪水に対して、床上浸水被害を解消する。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標：水害等災害による被害の軽減 ・施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数：1243戸 年平均浸水軽減面積：106ha									
事業全体の投資効 率性	基準年度	平成21年度								
	B:総便益 (億円)	1,582	C:総費用(億円)	91	B/C	17.4	B-C	1,491	EIRR (%)	-
事業の効 果等	・占部川における本事業の全体事業に対する費用便益比は17.38(>1)であり、事業着手時と同様な事業効果が発現される見通しである。									
社会経済 情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年8月末豪雨以降、大きな浸水被害は発生していないが、沿川農地などにおいて湛水被害が発生している。事業実施により浸水の危険性は事業採択時より減少しているが、事業未実施区間の浸水の危険性は事業採択時と大きく変化していないと考えられる。 ・流域のある岡崎市の人口・世帯数は、平成21年の事業着手時に比べ微増となっており、事業実施の必要性は、事業着手時と同様に高い状況にある。 									
事業の進 捗状況	・工事については、平成21年度に着手し進捗率は76.0%である。									
事業の進 捗の見込 み	・事業進捗は概ね順調であり、計画通り平成26年度に完了する見込みである。									
コスト縮減 や代替案 立案等の 可能性	特になし									
対応方針	継続									
対応方針 理由	事業の必要性の変化、事業の進捗状況及び見込み、事業の効果の変化について、事業着手時と大きな変動がなく事業効果が期待できるため。									
その他	特になし									

位置図【占部川】



<再評価>

事業名 (箇所名)	鹿乗川床上浸水対策特別緊急事業	担当課	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	愛知県					
実施箇所	愛知県岡崎市、安城市									
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業									
事業諸元	河道掘削、護岸工、橋梁改築、樋管改築 等									
事業期間	平成21年度～平成26年度									
総事業費 (億円)	約50	残事業費(億円)	約12							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、流域内の市街化が進んでおり、今後も進行することが予想される。 ・平成12年の浸水被害をはじめ、平成20年8月の豪雨では、床上浸水22戸もの甚大な被害が発生した。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削、護岸等を施工して流下能力の向上を図る。 ・平成20年8月洪水と同規模の洪水に対して、床上浸水被害を解消する。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標: 水害等災害による被害の軽減 ・施策目標: 水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数: 6戸 年平均浸水軽減面積: 7ha									
事業全体の投資効 率性	基準年度	平成21年度								
	B:総便益 (億円)	133	C:総費用(億円)	60	B/C	2.2	B-C	73	EIRR (%)	-
事業の効 果等	・本事業の全体事業に対する費用便益比は2.21(>1)であり、事業効果が発現される見通しである。									
社会経済 情勢等の変 化	<p>・平成20年8月末豪雨以降、大きな浸水被害は発生していないが、沿川農地などにおいて湛水被害が発生している。事業実施により浸水の危険性は事業採択時より減少しているが、事業未実施区間の浸水の危険性は事業採択時と大きく変化していないと考えられる。</p> <p>・流域のある岡崎市・安城市の人口・世帯数は、平成21年の事業着手時に比べ微増となっており、事業実施の必要性は、事業着手時と同様に高い状況にある。</p>									
事業の進 捗状況	・工事については、平成21年度に着手し進捗率は75.1%である。									
事業の進 捗の見込 み	・事業進捗は概ね順調であり、計画通り平成26年度に完了する見込みである。									
コスト縮減 や代替案 立案等の 可能性	特になし									
対応方針	継続									
対応方針 理由	事業の必要性の変化、事業の進捗状況及び見込み、事業の効果の変化について、事業着手時と大きな変動がなく事業効果が期待できるため。									
その他	特になし									

位置図【鹿乗川】

